

【嬉野市教育委員会】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

嬉野市では、嬉野っ子ワクワクデザインⅡの中で、「主体的に学び・考え・行動する力」を育み、うれしの新次代を創る『心豊かでたくましい嬉野っ子』の育成を目標に掲げている。子どもたちが将来、様々な問題に直面した際に、主体的にその問題と向き合い、多様な他者と協働して、新たな価値を創造し、解決することができる力を身に付けることを目指す。具体的には、次の3点を目指す学びの姿とする。

- ・自ら課題を見つけ、主体的に取り組む
- ・児童生徒が自己のデータを分析し、自己の学びを調整する
- ・様々な人とつながり、学びを広げたり深めたりする

2. GIGA第1期の総括

【成果と課題】

○嬉野市では2,296台の整備を行った。また、持ち帰っての活用を促進するため、Wi-Fi環境が整っていない家庭に対して、ポケットWi-Fiの整備も行った。

○授業支援アプリ、学習支援アプリ（AIドリル）を導入し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進している。

○少しずつではあるが、不登校児童生徒のオンラインでつながっての授業参加が進んできている。また、自然災害時での活用もできつつある。

○各学校の教育情報化推進リーダーが中心となり、職員への活用推進の研修を行っている。また、市内にICT活用推進部会を設置し、操作研修会を行ったり、各学校での情報交換を行ったりして、活用の充実を図っている。

△教職員の端末操作及びICT機器等活用の習熟度には個人差がある。その個人差が、児童生徒の学習に対する意欲や、興味・関心の高まりに少なからず影響すると考えられる。

△情報モラルの指導も十分に行う必要がある。

△端末の不具合や通信の不具合があり、対応が迅速にできないことがある。

【解決策】

- ・アプリの業者による操作研修会を開催したり、授業参観を計画したりして、研修のさらなる充実を図る。
- ・専門家を招き、保護者も含めた情報モラル教育を行う。
- ・情報教育支援員と連携を図りながら、不具合の対応を行っていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の日常的な利活用

- ・教師の指示で活用するのではなく、朝から自分の机に端末を常備し、いつでも、自ら必要な時に進んで使えるようにする。
- ・学習支援アプリ（AIドリル）を学校、家庭での学習に引き続き取り入れ、児童生徒が自身の特性や理解度や進度に合わせて課題に取り組めるように活用推進を図る。

(2) 1人1台端末を活用した学びの保証

- ・時間や場所にとらわれない学びの実現のため、オンラインでの授業配信の実施を引き続き行う。
（自然災害時や不登校児童生徒、病気療養中児童生徒等の対応）
- ・児童生徒の心身の状況把握を行うため、「心と身体のアナケート」を端末にて行う。
- ・端末活用について、保護者へも周知していく。

以上の取組を実施するため、端末の整備及び更新を確実に実施することで、1人1台端末環境を引き続き維持する。